

令和4年度第1回北九州市立図書館協議会 会議録

- 1 会議名 令和4年度第1回北九州市立図書館協議会
- 2 議題
 - ① 令和4年度北九州市の図書館（図書館年報）について
 - ② 令和3年度北九州市立図書館の運営に関する評価について
 - ③ その他
- 3 開催日時 令和4年11月18日（木） 14時00分～16時50分
- 4 開催場所 北九州市立子ども図書館2階大研修室
- 5 出席者氏名
 - (1) 委員（会長他9名、欠席委員5名）

北九州市立大学図書館長	中尾 泰士（会長）
北九州市学校図書館協議会副会長	本田 壽志
福岡県公立高等学校長協会北九州地区会長	内村 尚俊
北九州市私立幼稚園連盟理事	麻生 恭子
北九州市PTA協議会副会長	福田 百合加
北九州青年会議所常務理事	大下 亜耶
公募委員	山中 啓稔
北九州市社会教育委員	宮本 和代
北九州児童文化連盟副会長	阿部 和代
九州国際大学前図書館長	松本 幸一
 - (2) 事務局（中央図書館長他6名）

中央図書館長	柴田 憲志
中央図書館副館長、子ども図書館長	金子 二康
中央図書館運営企画課長	三ツ廣 託規
中央図書館奉仕課長	福田 淳司
中央図書館運営企画課庶務係長	内徳 誠治
中央図書館運営企画課デジタル企画係長	佐藤 孝徳
中央図書館子ども図書館企画係長	高尾 智之
- 6 傍聴者 1名

7 会議次第

議事（報告、質疑応答）

8 会議経過（発言内容要旨）

議事

① 令和4年度北九州市の図書館（図書館年報）について

「北九州市の図書館（図書館年報）」について、事務局から説明。

（委員）

20ページのホームページアクセス数について、今年度から集計方法を変えたと説明があった。私も数値に疑問があったので説明を聞いて理解したが、この数値はホームページにも掲載されているので、変更点について説明を掲載したほうが良いと思う。

続いて、21ページのグラフについて、単位が千単位となっているが、何万、何十万の数値なので単位を万単位としてはどうか。

最後に、28ページの各館の行事の集計について、各指定管理者の工夫や地域からの要望等による影響があると思うが、館によって非常に差異がある。先進的に行っている館のノウハウをできる範囲で他館でも共有してはどうか。

（事務局）

集計方法変更の掲載については、おっしゃるとおり、ホームページで説明が必要だと考えている。それから、単位の件については検討させていただきたい。

行事は、指定管理者の工夫の範囲となっており、各館の差については、地域からの要望や施設とのつながりの有無によるところがある。情報については、月1回の館長会議を行っており、情報交換の場を設けている。

（会長）

年報の公開について、年報自体はホームページで公開されているが、基礎となる各種データは市のオープンデータサイト等に掲載しているのか。

（事務局）

オープンデータについては現在のところ掲載していない。市のオープンデータの趣旨に沿って掲載するか検討したい。

（委員）

子ども電子図書館が開設されたが、貸出冊数について教えてほしい。

(事務局)

蔵書数や登録者数及び貸出回数については、年報の33ページ「6 北九州市子ども電子図書館」に掲載しており、こちらを確認していただきたい。

(委員)

電子図書について、貸出回数やよく閲覧される本の傾向など、何か検証はされているか。また、子ども電子図書館の今後の見通しについて、考えを教えてください。

(事務局)

開設当初は閲覧数、貸出数ともに順調であったが、時間の経過とともに落ち着いてきた。年数回の新作書籍のアップ時には、利用状況は好転するが、一時的なものである。学校への広報等、PR方法についても改善を進めている。

今後の展開については、紙ベースの本が良い等のいろいろな考え方もある。しかし、色々な状況下で生活されている方がいるので、広く間口をとり事業を進めてまいりたい。

(委員)

子ども電子図書館の対象年齢を教えてください。また利用コンテンツは読書だけではなく、学習目的のものも含まれているか。

今後、大人向けの電子図書の導入は検討されているか。

(事務局)

対象は18歳までを想定している。子ども電子図書館発足の経緯として図書に触れる機会の確保だけでなく、コロナ禍での学習機会の確保も目的としているので、書籍は一般的な読み物だけでなく、学習参考書及び問題集等も取り揃えている。

大人向けの電子図書については、紙媒体に比べて提供できる書籍が少ない。また、電子図書サービスは期間や貸出回数等で契約を行うので、規定を超えた場合は再度契約をする必要があり、紙媒体と比べ、コストがかなりかかるため、現時点では導入するのは難しいと認識している。

しかし、子ども電子図書館サービスが始まっているので、利用状況等を注視し、ニーズが高ければ導入を検討しなくてはならない。

(委員)

年報28ページの行事の掲載されている回数について、この中には外部施設に職員を派遣して開催されたものも含まれているのか。

(事務局)

要望があれば、市民センターや教育施設に職員を派遣して読み聞かせ・おはなし会を行っている。それを含めた数字である。

(委員)

電子図書について、学校の学習でも有効活用していきたい。まだまだ知らない先生方も多いので、図書館側から積極的に広報して欲しい。

(会長)

広く活用されるように広報をお願いします。

これで図書館年報については、報告を受けたこととする。

② 令和3年度北九州市立図書館の運営に関する評価について

「北九州市立図書館の運営に関する評価」について、事務局から説明。

視点1「多様な施設とつながる図書館」について

(委員)

視点1－方向性(2)－具体的取組⑥の取組状況の中に、北九州市立大学地域共生教育センターの「平和の駅運動プロジェクト」の学生と図書館を使った企画を行ったとあるが、これは図書館が主体的に行ったものか。

(事務局)

こちらは学生側から図書館側へアプローチがあった。

(委員)

学生の力はとても大きい。大学側が主体の活動であっても、取り入れる姿勢を持たなければならぬ。市内には大学が多くあるので、その大学や地域の特色を取り込んで、一緒に市民に発信できると良いと思う。

(委員)

視点1－方向性(1)－具体的取組④について、新型コロナウイルス感染症の拡大により文化施設館長会議は終了とあるが、必要であれば続けるべきであると思うが、そもそも開催の目的とは何か。

(事務局)

文化施設館長会議については、数年前に市で文化施設の連携を図って盛り上げようとい

うことで正式化した会議であり、所管は市民文化スポーツ局である。当初、活動は活発だったようだが、コロナで会議が開けなかったり、一堂に会さず、必要に応じて個別に連携することで十分ということで終了したと聞いている。

ただ、事業は終了しても、個別の連携は続いており、美術館のイベントに合わせて本を紹介したりするなど連携は取れている。

(委員)

視点1－方向性(2)－具体的取組⑨のひまわり文庫の利用状況の表について、令和2年度はコロナ禍によりひまわり文庫が活躍したと聞いていた。令和3年度はひまわり文庫の数値等こそ減少しているが、図書館全体の貸出冊数等は増加している。これは図書館にきて本を借りる本来の姿に戻ったと考えれば、昨年度から評価を下げる必要はないと思うが。

(事務局)

令和2年度は図書館の臨時閉館があり、市民センター等にて本を借りられるひまわり文庫が活躍した。逆に令和3年度は市民センターが閉館の時期があり、ひまわり文庫の貸出が減少したのは事実である。

ただ、ひまわり文庫については、予算の関係もあり蔵書の充実を図るのが厳しくなっている。具体的取組に充実と掲げているので、事務局としても工夫が必要と判断し、B評価とした。

(会長)

評価を下げる必要はないとのご意見だったが、図書館としてはより厳しくといった判断のようだ。

視点1については、図書館の評価を協議会として受け入れる。

視点2「市民の課題解決を支援する図書館」について

(委員)

視点2－方向性(1)－具体的取組①について、データベースに掲載される内容は、どのような基準なのか。

(事務局)

国立国会図書館レファレンス協同データベースには、同じ図書館職員でも参考になるようなレファレンスや調査に時間を要したレファレンスを載せている。

また、市ホームページには問い合わせが多い内容を中心に掲載している。

(委員)

視点2-方向性(1)-具体的取組②に出てくるパスファインダーとは何か。市立図書館ではどのような利用をしているか。

(事務局)

パスファインダーとは、調べたいと思う事柄についてどういう本が参考になるか、どういう風に調べていったらよいか等について記した調べ方ガイドのことである。中央図書館では冊子にして、閲覧できるようにしている。他館では小倉南図書館、八幡図書館で作成している。

(会長)

視点2の評価については、事務局の評価も昨年とあまり変わっていない。委員からも特に意見が無いので協議会として認める。

視点3「子どもの読書活動を積極的に推進する図書館」について

(委員)

感想になるが、子どもの読書活動を推進する図書館について、本当に有意義な取り組みだと思ふ。読み聞かせボランティアをしているのだが、図書館の本を利用することもあり、図書館の充実が子どもたちに豊かな読書活動を届けられていると思っている。

(委員)

視点3-方向性(1)-具体的取組⑧北九州市子ども読書の日の新設について、北九州市独自に10月の第4日曜日を設定していただいたことで、4月の学校が忙しい時期に行っていた取組をじっくりと行えるので好評である。

また、この日に合わせてイベントを行う取組は良いと思ふ。今後も図書館に来館する機会を設けていただきたい。学校としても協力したい。

(事務局)

始まったばかりの事業なのでまだまだやることはたくさんあるが、子どもたちの身になる取組を進めていきたい。

今年度の取組だが、夏休み明けに悩みを抱えたお子さんが増えるので、ほっとしたり、心が豊かになったりする本を集めた特設コーナーを設置した。今後の予定としては、不登校支援センターと協力し、不登校の児童生徒向けにオンラインでの図書館見学を行うことを考えている。

(委員)

視点3－方向性(2)－具体的取組⑩について、夏休みに合わせて講座を開催しているが、春休みにも行うことを提案したい。

(委員)

話の中にあった居場所について、学校に行きづらいと感じている子たちが、図書館に来ることはあるのか。また、図書館として何か取組は行っているか。

(事務局)

居場所というのは、いろいろな場所に求められている。図書館もその一つであり、実際にそういったお子さんが来館した際は、見守るという姿勢で臨んでいる。

当然、そういった場合には、所管する教育委員会事務局と連携し、対応を行っている。

(委員)

視点3－方向性(1)－具体的取組⑨⑪について、活躍されている読み聞かせボランティアの方を多く存じ上げているが、育成事業があると知って納得した。今後も事業の拡大や継続した取り組みを行ってほしい。評価はBとなっているA評価となるようにお願いしたい。

(事務局)

図書館内での読み聞かせは継続して定期的に行っている。また、ボランティアの外部派遣についても積極的に行っている。

部分的にはA評価もありますが、事業全体を総じてB評価とさせていただきたい。

(委員)

紙芝居の稼働率を教えてください。また、文字だけではなく絵から感じることを、考えることも多いと思うので、是非とも普及に努めていただきたい。

(事務局)

紙芝居単体での統計は取っていない。

紙芝居等の絵から受ける印象はとても大切で、子ども図書館の絵本の配架については、作家ごとに並べたりと新しい取り組みを行っている。

紙芝居は新刊の発刊自体が少なくなってきたが、今後もニーズにこたえられるように収集していく。

(会長)

視点3－方向性(1)－具体的取組③について、配布が母子健康手帳配布時となっている。

必ずしも全員無事に生まれてくるわけではないが、配布時期について何か議論されたのか。

(事務局)

もともとはブックスタート事業というのがありまして、ご要望に対して配布を行ってまいりました。要望ベースなので配布率が悪く、出来るだけ多くの人に利用していただきたいと時期の変更を行った。配布率については格段に良くなり、早い時期から読書の必要性や重要度を認識していただけるようになった。

(会長)

たしかに配布率を上げるのは意味がある。しかし、場合によってはその絵本を見ると悲しくなる母親もいるかもしれないと思ってお尋ねした。

(会長)

評価変更については特に意見が無いので、図書館の評価をままとする。

視点4「誰もが使いやすく、人や情報が交流する図書館」について

(委員)

コロナウイルスの影響と合わせて、学習室の状況についてお聞きしたい。また学習の場の提供が図書館の意義となるなら、評価項目として取り上げてもよいかと。

(事務局)

昨年度当初の緊急事態宣言発令時は閉めたが、以降は開けている。ただ、感染拡大防止のため、座席を削減している状況である。

学習室については、市民からの要望や問い合わせも多く、図書館としても居場所づくりや生涯学習に関連して、重要な位置を占めていると認識している。

(委員)

学習室の現状を聞いて難しいとは思いますが、コワーキングスペースの整備など、ビジネスパーソン向けの利用についても今後検討していただきたい。

(事務局)

物理的にどうするか。ハードで駄目ならソフトでということになる。明らかにそういった需要があれば、施設改修や次期指定管理者の選定条件に入れることもできる。

ただ、コワーキングスペース等のことについては、まずは産業経済局等が頑張っていたいき、図書館はプラスアルファのところになろうかと。

(委員)

視点4－方向性(1)－具体的取組②について、見直し行っていないとなっているが、ニーズや課題が無ければ行う必要がないと思う。システム更新に合わせて改選となっているが何かニーズなりがあるのか。

(事務局)

ホームページについては、非常に改正がしづらいシステムになっており、部分によっては別途費用がかかる。これらはシステム更新に合わせて改善するしかない。さらに利用者から見づらいとか、情報が適宜掲載されていない等のご意見をいただいている。この部分についても改正を進めていく。

他にも、バリアフリーやコンテンツのソフトの面も含めて考える必要があると思う。

(会長)

退席された委員からはWi-Fi環境について改善をお願いしたいと聞いている。

この視点については、D評価が2項目ある。これについて協議会として図書館には改善をお願いする。

(会長)

II令和3年度事業目標の1について、これが視点4の内容になると思うが、この評価項目がないのはどういう状況なのか。

(事務局)

評価項目は平成28年のこれからの図書館サービスのあり方の答申に基づき定めている。しかし、その後、読書バリアフリー法の制定等で新たな課題が出てきたため、これを抽出して力を入れて事業を行っている。したがって、内容にずれが生じている部分もある。これからの図書館サービスのあり方の改訂も行わなければならない時期に来ていると思っている。

(会長)

ただ、視点4でも新事業の掲載がある。新たに取組を行っているのであれば、項目として取り上げ評価すべきである。

(事務局)

図書館のあり方の答申内にあるが、時代の変化に合わせて取り組んでくださいという項目がある。来年度以降は追加していく項目、行くべき項目についてしっかりと考えたい。

(会長)

来年度以降の反映されることを期待する。

視点4については、厳しい評価もあるがこのままでよしとする。

視点5「市民参画型の図書館」について

(委員)

視点5－方向性(2)－具体的取組⑤について、対面で複数回開催できるよう努めるとなっているが、今後のスケジュールとプランをお聞きしたい。

(事務局)

現在、素案を作成している。予定だが、2月に図書館の現状の説明と館内見学を。6月には図書館評価及び指定管理者の評価と選定。11月には指定管理者制度の選定結果の報告。それから翌年2月には翌年度の図書館の目標についてお諮りしたいと考えている。

(委員)

他の自治体だが、コロナ禍でも複数回開催していた図書館協議会がある。そういったところの議題等も含めて、先進的などころを参考にさせていただきたい。

(会長)

視点4について、C評価の図書館協議会は自らを戒めるという形で低い評価に、他はA評価、B評価と概ね順調ということで協議会として評価を認める。

(会長)

すべての視点について、ご意見を賜りました。北九州市立図書館協議会の評価の記載については、図書館の事務局と私の方で調整し、皆さんのご意見を反映させて作成するのでご一任をお願いする。

③その他

資料1 北九州市立八幡図書館折尾分館の新築移転開館について

資料2 門司図書館及び戸畑図書館の指定管理者候補の選考結果について
事務局から説明。

(委員)

質問なし

(会長)

全体を通して何か質問等はないか。

(委員)

高校で教えていると、読書量というのは感性あるいは論理的思考力にすごく影響する。幼児読書も非常に大事だ。

ただ、学校教育の中で読書の時間をとるのにも限界がある。そこで図書館には子どもから大人まで本に触れる機会を作っていただき、感性豊かな北九州市民を増やしていただけるようお願いしたい。

これは提案だが、他の文化施設では作品等の前にQRコードがあり、読み込むと作品等の説明が出てくる。例えば、これに連携して、作品に関連した書籍がこの図書館にありますとかすると。本を読み機会につながる。

時代はどんどん変わっているので、時代に即して新しいことをやっていただきたい。

(委員)

返却された本について、職員が手作業で消毒しているようだが、他の図書館でも導入されている消毒機を導入して、職員の負担軽減を図ってはどうか。また、貸出手続きに関しても、自動貸出が主流となってきていると思う。チップを入れなくても、利用者が自ら貸出手続きを行うなど代替的な方法を採用している図書館もある。

地区との連携やイベントなど、司書の方にしかできないことがあるので、ハードの導入で司書の負担が減るように検討していただければと思う。

(会長)

図書館を取巻く状況については、ICTの普及、コロナ問題、障害者への対応など大きく変化している。

本日、皆様から頂いたご意見等については、図書館側もきちんと受け止めていると思うので、来期の図書館協議会に引き継いでまいりたい。